

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット共通)

事業所番号	2794800066		
法人名	社会福祉法人 なみはや		
事業所名	グループホーム松原なごみ		
所在地	大阪府松原市東新町5-4-10		
自己評価作成日	令和3年11月12日	評価結果市町村受理日	令和3年12月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和3年11月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナにより外出や面会が出来ない事により、入居者1人1人の意見を尊重しながら、レクリエーションに力を入れ、敷地内での散歩や入居者同士が交流が深められる様に、バルコニーを改造し、テーブル等設置している。

当事業所は

当事業所は「社会福祉法人なみはや」が大阪府下に運営するケアハウスやデイサービスと3つのグループホームの1つとして平成26年に設立された。最寄り駅から徒歩7分と利便性が良く静かな住宅街に位置し近くには散歩に最適な小公園がある。着任4年目になる管理者(施設長)はコロナ禍により散歩もままならない入居者のためにと奮励努力しバルコニー工事を一人で完成させた。30袋の砂利を埋め込むなどの大変な作業をたった一人でこなししたテラスはBBQや日光浴などに広く活用され入居者に喜ばれている。医療面については常勤の看護師だけではなくグループ医療機関2カ所の病院からも看護師が頻りに訪問し主治医とのパイプ役となっている。手厚い医療体制が整い安心安全である。入居者はハートフルな管理者と職員に見守られながら穏やかな日々を過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念は、各フロアのモニターの上に掲示している	運営理念(フロー理念)は各ユニットの目につきやすいモニターの近くに掲示している。「その人らしさを大切にして尊敬と愛情を忘れず笑顔の日々を提供する」は各職員がしっかり暗記した上、常に意識して日々の支援に活かそうとする姿勢がベテラン職員とのヒアリングにより確認できた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナにより、地域とのつながりは途絶えている。しかしながら、管理者が近隣の方とお話をし交流を深めている。	コロナ禍が2年と続き利用者の地域との交流は停滞(ボランティアの来訪も含め)したままだが、管理者(施設長)は自発的に広い隣接地の草むしりや清掃・整備を一人で行うなど近隣住民と積極的に関わり地域に溶け込む為の地道な努力を続けている。地域の一員として良好な関係が保たれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナにより、入居者と地域の方の交流はないが、管理者が地域の方の意見を聞き、道路整備や草抜き等、行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナにより書面開催としている。	コロナ禍により運営推進会議は書面開催とし簡単な報告に留めている現状であるが、管理者はコロナ禍収束後に向けて知見者や地域住民・家族への参加要請を続けたいとしている。会議の内容や現状をまとめた議事録は閲覧できる様ファイルに閉じ公表している。	運営やサービス内容への家族の関心を高め会議への参加を促す為に議事録の整備(プライバシー保護・様式・現況報告内容など)を行うと共に全家族への郵送やメールでの配布実施が望ましい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	新型コロナにより訪問や連絡もなく、担当者が誰かも分からない状況。福祉の方の担当とは毎月、管理者が連絡や書類の提出時に、お話をさせていただいています。	市の担当課(高齢介護課など)とは運営についての相談や報告などで頻りに交流している。運営推進会議には高齢介護課職員の参加がある。コロナ禍により休止中であった市のグループホームホーム連絡会(管理者は副会長)は8月に久しぶりに再開され有効な情報交換の場となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の指針の整備、研修年4回行い、職員の周知の徹底を行っている	「身体拘束適正化の指針」を作成し3ヶ月ごとの「身体拘束適正化委員会」を開催し新人研修や職員への年4回の研修も適切に行っている。現在身体拘束の事例はない。玄関は防犯上施錠しているが、外に出たがる様子があればテラスでの外気浴にさりげなく誘導するなど閉塞感を感じさせない支援を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者が日中、定期的に現場に出たり、入居者へ管理者が個別で意見を聞いている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度に関して、勉強会を通して周知させている。現状、利用する対象者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	今年、4月から介護保険法が改定され、再度契約時に十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	新型コロナにより、面会は禁止だが、会社の電話にて入居者ご本人と家族にて意見交換を行っている。また、管理者の私用の携帯番号を家族に教えている為、24時間意見交換や状況など、報告をしている	管理者や職員は日々利用者や家族の要望をくみ取る努力をしている。毎月の「なごみ通信」では利用者の写真と共に、レクリエーションの様子や医療情報(薬情報・検査結果など)を送付しているが入居後間がない利用者の家族には特に頻りに電話や施設長とのホットライン(私用携帯)を使い丁寧な報告・相談をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、職員に対して、電話番号・メール交換をしており、個別でも意見を聞いている。月1回の全体会議、主任会議に反映させている。	職場の風通しは良好で職員は管理者に意見や要望(直接話す・メール・会議)を言いやすい雰囲気がある。経験の浅い職員が多いが、管理者やユニットの主任は積極的に関わり、要望や困り事などを把握する姿勢がある。最近では鍵の壊れていた更衣室のロッカーを新品に交換するなど職場環境の改善が着々とすすんでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現管理者が就任して以来、休憩場所の設置等を行い、環境の改善を行っている。給与に関しては規定がある為、水準は満たしているが、重度な労働をさせていない		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナと人材不足により、施設外の研修は困難だが、無資格者には、資格取得へ公休与え、向上させている(本人の承諾の元)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年4回グループホーム連絡会があり、松原の各グループホームの施設長が集まり、意見交換を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者が中心に、入居者の要望を常に聞いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者の私用の携帯を家族に教えている為、出来る限りの要望は聞いているが、グループホームでは、出来ないサービスを要望される家族様が実際居るのが事実		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者が必ず、入所前に家族とご本人に個別でお話をし、意見をお聞きしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員には、お客様と言う視点ではなく、自分の身内(友達)と言う感覚を持たせ、施設を第二の家として考えさせ、関係を構築している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナにより、職員と家族の絆は施設の電話でしか行う事が出来ていない為、不安が多いにある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナ・地域性状、関係が途切れている	2年に及ぶコロナ禍により行きつけの美容院や知人との訪問もままならず、馴染みの関係は殆ど途絶えている。近所の知人(宗教仲間など)が訪れる時もあり、直接面会は出来ないが管理者が仲立ちお互いの近況報告などの伝言を伝えあうなど馴染みの関係が途絶えないよう配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員から管理者に報告が上がり、職員に任せず、管理者も一緒に、仲を取り持っている。入居者同士の派閥もあり、困難な場合もある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、他の家族様や親戚などの介護に関しての相談は受けている。ご本人の次の行先迄、病院やその施設を家族が決めるのではなく、管理者も介入しながら行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者には1人1人、管理者が出勤時お話し、出来る限りの意向を実現している	管理者は毎朝利用者一人ひとりとスキンシップを交えながら向き合う時間を作っている。家族的な雰囲気の中でやりたい事や意向などをくみ取り、本人本位の支援に取り組む姿勢が利用者や家族の多くから厚い信頼を得ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者には1人1人、管理者が出勤時お話し、出来る限りの意向を実現している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ADLが落ちない様な個別実践や、自由に暮らしていただける様、努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の全体会議・フロアー会議・個別・家族の意見を反映させ、介護計画に反映させている	状態が安定している利用者には短期3ヶ月長期を6ヶ月とし介護計画を作成している。新利用者には暫定的な計画のもと様子をみながら支援をしている。いずれも状況変化時にはその都度対応を検討する。医療関連の情報(医師・看護師ら)や家族の意向(電話での報告・相談が主)職員からの情報を総合的に反映し作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・申し送りのノート・全体会議・主任会議・フロアー会議にて介護計画を変更させている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護記録・申し送りのノート・全体会議・主任会議・フロアー会議にて介護計画を変更させている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナにより、途絶えている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に医療連携機関を指定させていたが、内科外の場合は、専門科受診を家族と管理者が付き添い受診している	かかりつけ医は本人、家族が決めるが殆どの利用者は事業所の協力医療機関とすることに同意し、内科、精神科は月2回、歯科は希望者のみ毎週往診を受けている。他科の受診は家族の同行としているが都合の悪い時は、事業所で対応する。看護師が常駐して健康管理を行う他、週2回東和病院の看護師が来て状態を観察し医師と連携をとっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当施設では、看護師を配置しており、管理者を含め、訪問看護師と情報のやり取りを行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療連携機関や他の病院には、当施設からサマリーを渡し、(家族様の意向や本人の意向を事前に聞いており)、病状にや今後の経過よっての連絡は随時行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、方針に関しては、家族と話し合っております。	入居時に重度化した時の対応について事業所で出来る事出来ないことについて重度化指針を示して説明をしている。かかりつけ医が重度化したと判断した時、改めて医師を交えて、家族と話し合い、利用者にとって最善を尽くす。現状では事業所において看取りは行っていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故対応に関しては、職員は周知している(連絡方法等)。地元の職員が多い為、応援の体勢を整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防火訓練を行っている。また、地域の方からは、当施設に避難させて欲しいと要望が多い。当施設が困難な場合、避難場所は指定しているが、他の病院にもお願いをしている。	災害マニュアルは整備され、防火設備は業者が年1回点検し、避難経路は職員が周知している。年2回消火避難訓練を実施し、消防署とは電話で連絡を取りながらの訓練を行った。備蓄品は用意されているが量的に少ない。職員の少ない夜間想定訓練は、次回(来年2月)に実施予定である。台風時に近所の住民が避難させて欲しいとの依頼が来ている。	災害時の為の備蓄品は、何がどれだけ必要か、一覧表にして置き場に貼り付けておけば分かりやすい。何がどれだけ必要かは防火管理者を中心にして複数の職員で検討、実行されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	さりげない声掛けにて誘導している	職員の利用者に接する態度や声掛けは丁寧過ぎず、押し過ぎず、人格を尊重した対応をしている。トイレ誘導などでは、さりげない声掛けで羞恥心にも配慮している。常に笑顔を忘れないようにと管理者は指導し利用者には家族や親しい友人として接するよう努めている。利用者の個人情報書類等は鍵付きのロッカーに保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴時の着替えを職員と一緒に選んだり、何事にも声掛けして、決めていただいている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	当施設では、基本自由に暮らしていただいている。食事時間等、日常生活の時間のみ決めさせていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	新型コロナの為、一緒に外出は出来ないが、衣類等は、ご本人や家族の要望を聞き、管理者が代理で購入している。月1回の訪問散髪も取り入れている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おしぼりを置んだり、本日のメニューを呼んでいただいている。	業者がメニュー付きで納入する食材を、ユニットごとに職員が調理し暖かい食事を提供している。朝食は夜勤者が作る。職員は原則一緒に同じものを食べることになっているが(半額補助)自分で好みの弁当を食べる職員も居る。おしぼりを置んだり、メニューを読んだりで利用者も参加している。おやつ作り、裏庭でバーベキューを楽しんだり、リクエストで管理者が材料調達して利用者を喜ばせている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	病名・医師の指導・栄養管理士の指導の元、対応に応じている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	医療連携機関の訪問歯科の指導の元、職員と入居者で、口腔ケアを行っている。義歯のある方は、就寝前にポリドントにて洗浄し、職員が預かる体勢にしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を参考にし、入居者の排泄パターンを把握し支援している	排泄パターンは利用者ごとに色々であるが。表情や仕草を見ながらそっと誘導する。おむつやパッドの使用削減の為早めに誘導する。排便が滞る利用者には医師と相談して食事を加減したり、下剤を服用したりして排便を促している。夜間は時間を決めトイレ誘導するが、ポータブルトイレを設置している部屋もある。ポータブルトイレは管理者の人脈と努力で家族の負担を極力少なくしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給強化と体を動かす等、支援している。下剤を服用している入居者は多い		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴実施。必要性がある場合、入浴回数を増やす場合がある。季節の入浴剤をレクに取り入れ、楽しんでいただいている	入浴支援は週2回であるが、柔軟に対応し希望者はいつでも入れる。拒否する利用者もあるが、時間や担当を代えて入浴を支援している。入浴剤を入れて季節感を楽しませたりするが、好まない利用者には使用しない。入浴中に利用者の声を聞き出せることが多い。利用者の声を職員で共有し介護に反映させている	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お部屋の環境を、家族・本人の意向を聞きながら、施設側で準備したり、往診時、医師に相談したりしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者や職員が薬剤師から指導を受けながら、服用管理を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新型コロナにより、外出は出来ないが、ご本人の要望を取り入れ、代理で購入したり、改築したバルコニーで気分転換を行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナにより徒歩の外出は出来ないが、管理者と職員1名付き添いの下、近場のドライブを行っている	コロナ禍の前には、協力医療機関の東和病院のバスで遠距離の、普段行けない所への遠足に行っていた。利用者はホームに閉じ込められたようで、家族との面会もままならない。管理者は事業所の車で3人ずつ近場のドライブに行って利用者の気分転換を図っている。温かい日にちを選んでどこかで少しでも降りて散歩も入れのも良いと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当施設では現金の預かりはおこなっておらず、現金や金品に関しては、家族様の管理となっています。(入居時は全てお持ち帰っていただいています)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者や家族には、施設側から毎月写真を送らせていただいたり、ご本人や家族が定期的に会社の電話にてお声を聞いている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の要望をお聞きしたり、あまり物を置かない様にし、清潔感を保っている。ライトも温かみのある、オレンジ色のライトを使用している	玄関ホール、エレベーターホール共にすっきりと上品な雰囲気である。リビングは12~3人が両手を広げて体操しても狭くは感じない。壁に季節感のある手芸作品が貼ってある。貼り過ぎてないのが美しい。テーブルが2脚、ソファが2台適当に配置されている。ベランダに面し内部照明と自然光とで明るい。浴室トイレ等清潔である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用フロアには、ソファやテレビを設置しており、当施設では自由に過ごしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	当施設では、個室にテレビを無償で提供したり、日々、工夫を考えている。	ベッド、洗面設備、クローゼット、照明、エアコン、台付きテレビが設置されている。その他は利用者の使い慣れた家具、備品を持ちこみ、思い入れのある写真などを壁に貼り、自宅での生活の継続性が感じられる。部屋はゆったりとした広さがある。居室にテレビがあるのはプライベートな空間として、一人でゆっくり楽しむのにもよい。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居時からの課題で、いかに施設としての考えで固執せず、いかに自由に暮らしていただくか、規則正しい生活が出来るかを日々、改善に取り組んでいる。		